

# 法説辻

岩手県曹洞宗布教師会三分間法話

## 人間シヤカの誕生

遠野市・慶雲寺住職

菊地伯也

十二月八日は、お釈迦さまがお悟りを開かれ仏陀となられた誕生日に対し、四月八日は人間としてこの世にお釈迦さまがお生まれになった誕生の日であります。

今から二千五百年ほど前、今のネパールの南部、インドとの国境近くにカピラという小さな王国があり、シヤカ族の人達が住んでいました。

お釈迦さまはこの種族の王子として誕生されました。父の国王はスッドーダナ(浄飯王)といい、母の王妃はマヤー(摩耶夫人)といいました。

ある日のこと、マヤー夫人は、白い立派な象が体の中に入ってくる不思議な

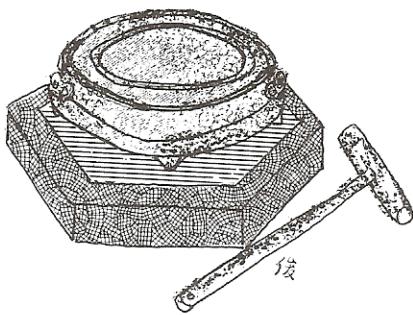
夢をご覧になりご懐妊されたのでした。出産のため、里帰りする途中立ち寄ったルンビニーの花園で休まりました。

マヤー夫人が花盛りの無憂樹の枝におすがりになった時、お釈迦さまのお誕生を迎えることになりました。

そしてお釈迦さまは、生まれると直ぐ東西南北に7歩つつ歩まれ、右手で天を左手で地を指され「天上天下唯我独尊」といわれたのです。その後7日目に母マヤー夫人は亡くなられ、それから母の妹マハーパジャパティという心優しい養母に育てられたのでした。先の「天上天下唯我独尊」とは「お山の大将われひとり」と言った自己中心的な

考えではありません。「すべての人達は生まれながらにして尊いもの」という人間平等、基本的人権、誰でも仏になれるという、人格平等の知恵を表したものにほかなりません。

その象徴的な姿が、掌を合わせることなのです。「すべてに掌を合わせる人であれ」



曹洞宗岩手県宗務所  
**テレホン法話**  
 ☎ 0120-62-1602



心に残る  
法話を  
お聞き  
下さい